

〈第一部〉 海外生保事業

甲斐 章文

常務執行役員 海外生保事業才一ナ一



甲斐 章文

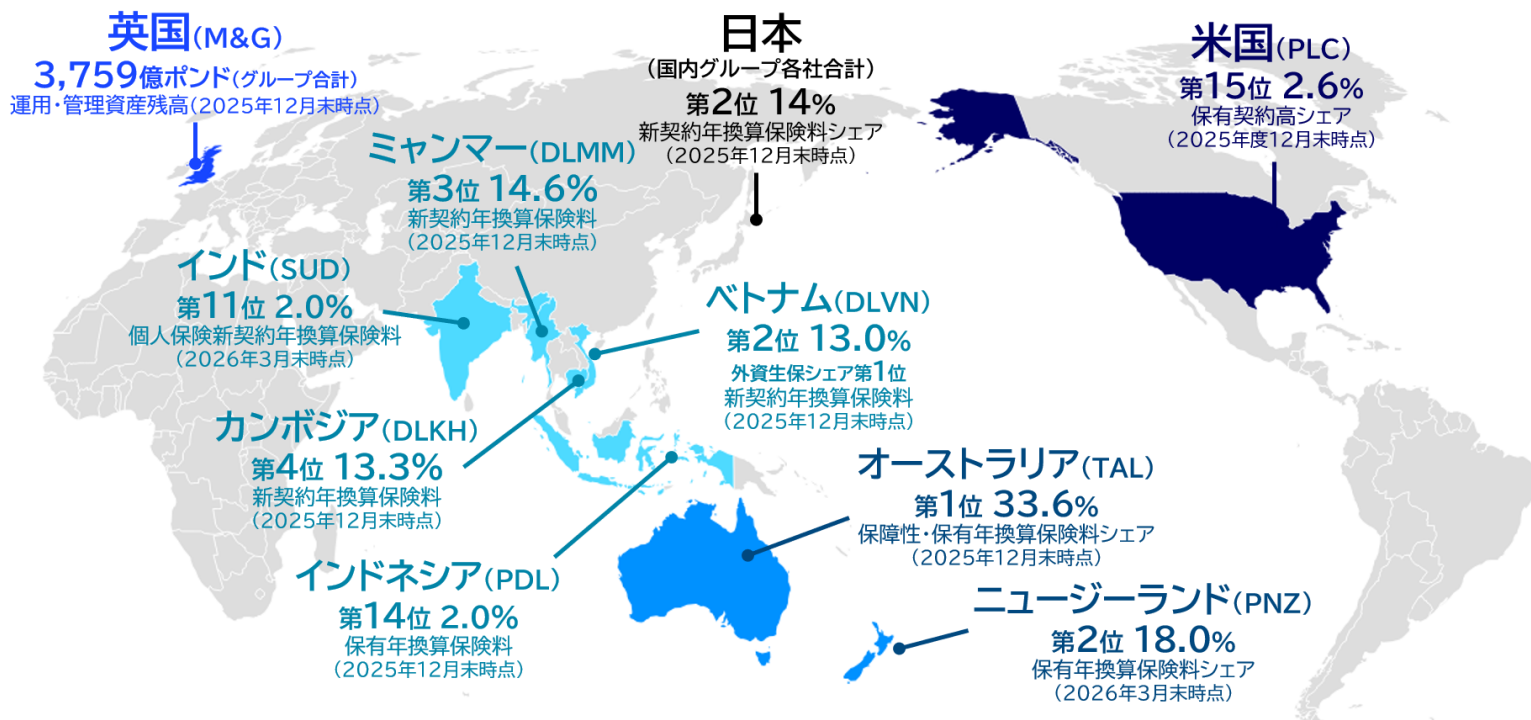
常務執行役員
海外生保事業オーナー

1997年	4月	第一生命保険相互会社 入社
2018年	4月	DLIアジアパシフィック 部長待遇
2019年	4月	第一生命保険株式会社 運用企画部長
2022年	4月	第一生命ホールディングス株式会社 経営企画ユニット長
2023年	4月	第一生命ホールディングス株式会社 執行役員 経営企画ユニット担当
2024年	4月	同 執行役員 新規事業オーナー 兼 経営企画ユニット担当
2025年	4月	同 執行役員 経営企画ユニット担当
2026年	4月	株式会社第一ライフグループ 常務執行役員 海外生保事業オーナー(現任)

海外生保事業の現在地

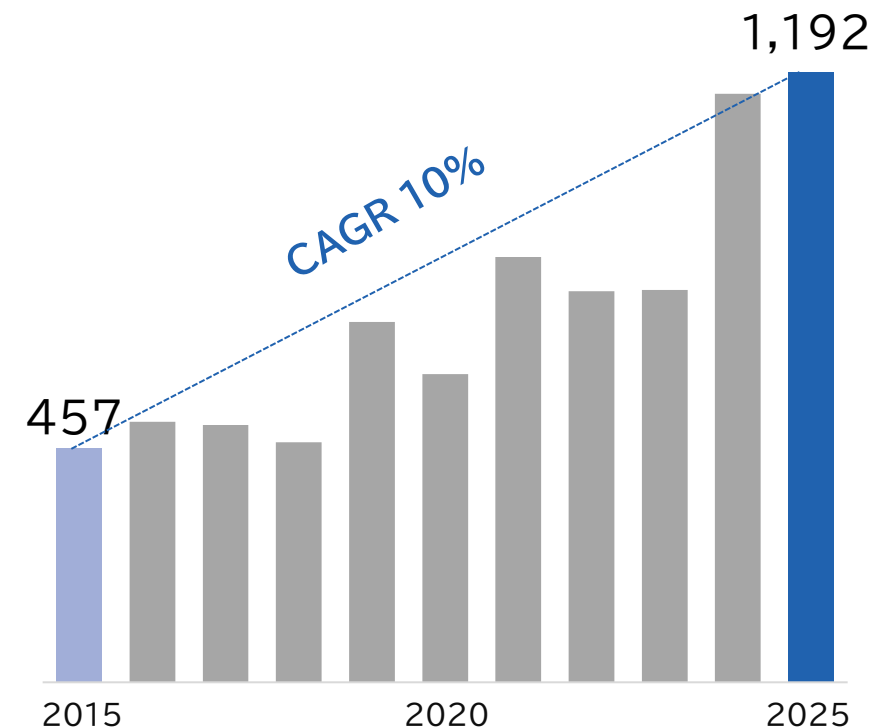
- ▶ 2007年のベトナム進出以来、世界の主要マーケット・異なる事業ステージにバランスよく展開し、競争力のあるポジションを確立
- ▶ 海外生保事業の修正利益は、直近10年間でCAGR10%となり、2025年度は過去最高益となる1,192億円に到達

進出国の状況



修正利益

(億円)



(1) Datawrapper社作成の地図を使用しています(このスライドの地図に示された境界や名称は、いかなる国、領土、都市、地域、またはその当局の法的地位、またはその国境や境界の画定に関して、当社の見解が表明されていることを意味するものではありません)。(出所) 米国:S&Pグローバルマーケットインテリジェンス、LIMRA U.S. Retail Individual Life Insurance Sales Survey、豪州:Plan For Life、ニュージーランド:FSC Insurance Market Statistics、日本:各社公表数値より当社調べ、ベトナム:ベトナム生命保険協会、カンボジア:カンボジア保険協会、ミャンマー:ミャンマー保険協会(国営除く)、インド:IRDAI、インドネシア:インドネシア生命保険協会、英国:M&G plc Annual Report and Accounts 2025

- 北米・欧州
- オセアニア
- アジア

地域の分散

金融市場・地政学等の
リスク分散



事業の分散

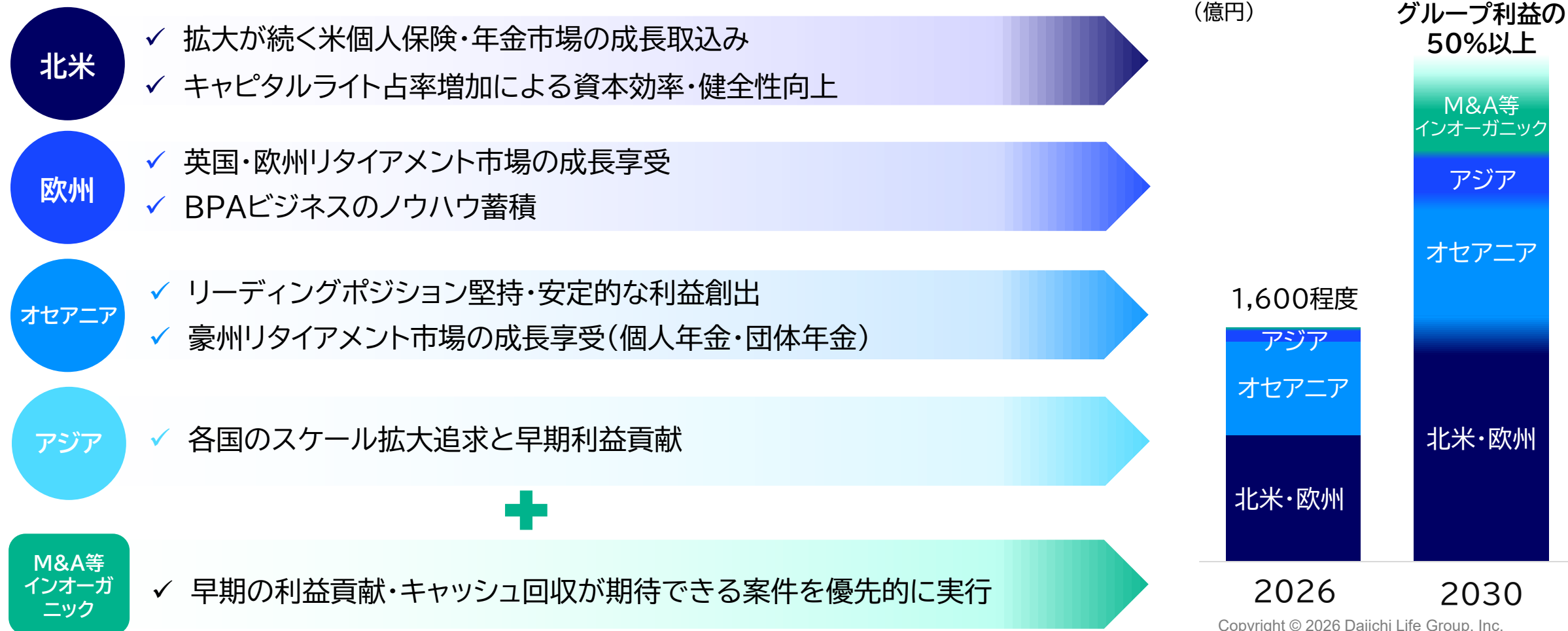
- 生命保険
- リタイアメント
- キャピタルライト

収益基盤強化と
健全性の両立

グループ利益の50%以上に貢献

海外生保事業戦略

- ▶ FY30グループ利益目標の達成に向け、既存事業を通じたオーガニック成長とM&A等を通じたインオーガニック成長により貢献
- ▶ 各地域の競争力を活かし、既存事業の収益力強化を図る。インオーガニック成長に向けた取組みについては、早期利益貢献・キャッシュ回収が期待できる案件を優先的に実行



- ▶ 北米は引き続き海外事業の成長の柱であり、PLCの個人向け年金・保険事業および近年買収したキャピタルライト事業が成長を牽引
- ▶ インオーガニック取組については、健全性・資本効率を一定程度維持しつつ、早期利益貢献・キャッシュ回収が期待できる案件を探索

2030年度に向けて

● 個人年金・個人保険事業

- ベビーブーマー世代のリタイアメント資産拡大・資産運用ニーズ取込み
 - ✓ リタイアメント事業の営業利益CAGRは約5.3%(FY '15-'25)
- キャニオン等への外部委託等を通じた運用力強化

● キャピタルライト事業

(アセットプロテクション[APD]事業等)

- 既存事業 | インフレを受けた料率改定・効率化による収益改善
- 新規事業 | Portfolio社⁽¹⁾のPMIの早期完了
- 加えて、Obsidian社⁽²⁾の買収・統合を進め、更なる利益上積み(団体保険事業)
- 新規州への進出およびNY州における保障内容拡充の可能性

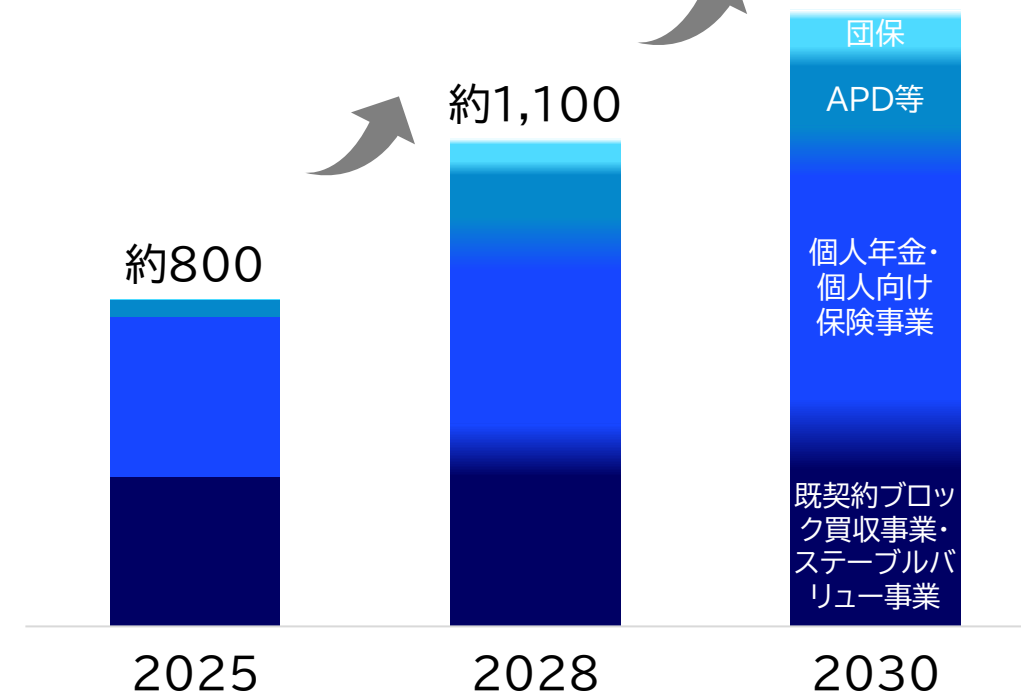
● 早期利益貢献・キャッシュ回収が期待できるM&A案件探索

- 資本効率も意識した良質なM&A案件を継続的に探索

既存事業の成長

修正利益
(億円)

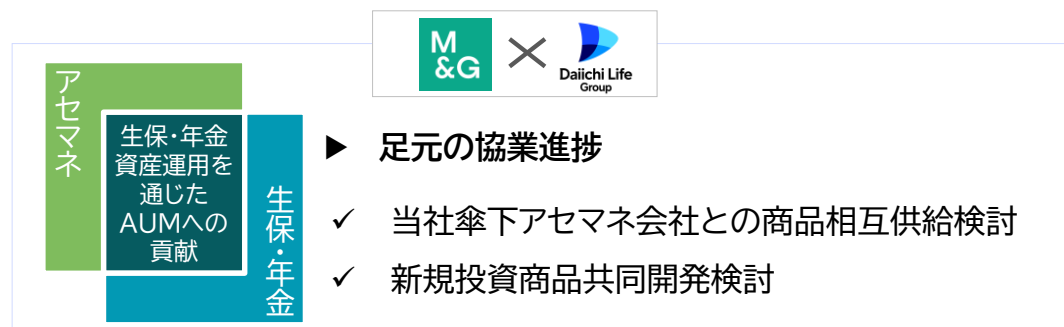
✓キャピタルライト占率増加
✓個人年金・個人保険の
着実な成長



- ▶ 英国M&G社の関連会社化・協業取組を通じて、生保・年金/アセットマネジメント(AM)事業の双方で、成長機会の創出を目指す
- ▶ M&G社を起点としたアドバンスド市場欧州でのリタイアメント/AM領域の収益拡大・ノウハウ獲得を通じて、利益貢献を図る

2030年度に向けて

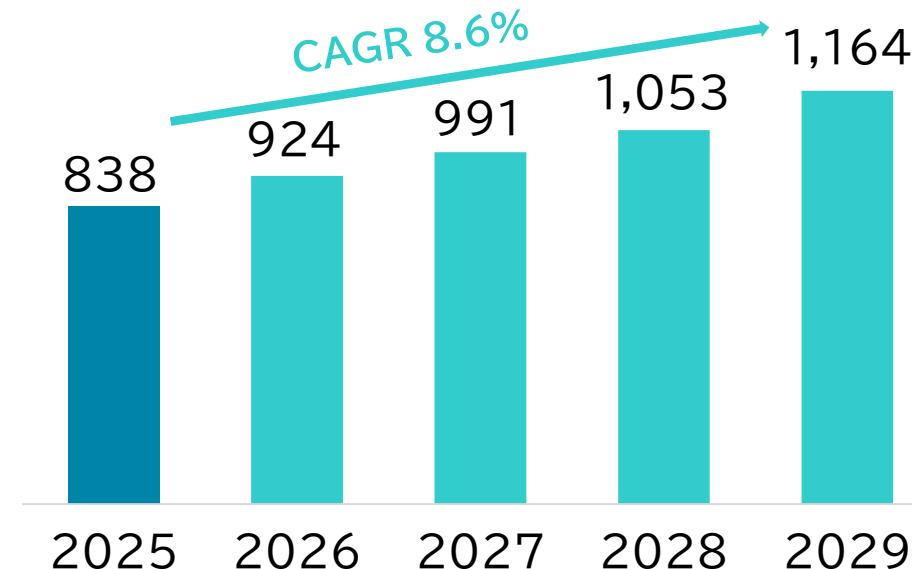
- **生保・年金/AM分野の収益拡大**
 - ・ リタイアメント収益の拡大を通じた利益貢献
- **生保・年金分野でのシナジー**
 - ・ 提携を通じたBPA市場⁽¹⁾の知見蓄積/
グループ内ケイパビリティ強化
- **AM分野でのシナジー**
 - ・ M&G社と当社グループAM会社の強みを組み合わせた
Investment Strategyの共同検討



既存事業の成長

Adjusted Operating Profits
(調整後営業利益・税引前)⁽²⁾(百万ポンド)

〔・ M&G社公表のコンセンサスベース
・ M&G社全体の営業利益を記載
(≠当社持分15.7%)〕



(1)バルク年金買取(Bulk Purchase Annuity) (2)2026年4月にM&G社公表のコンセンサスを使用(収集期間:2026/4/10~2026/4/29) 本コンセンサスはM&G社が収集したアナリスト予想の平均値であり、情報提供のみを目的としています。投資推奨を意図するものではなく、M&Gは予想値の正確性や実現可能性を保証しません。実際の業績は予想と異なる場合があります。Adjusted Operating Profitsは、当社の修正利益の定義とは異なります
Copyright © 2026 Daiichi Life Group, Inc.

- ▶ 保障事業では、昨年度の請求増による下押し影響が緩和し、今年度以降、安定的な利益創出フェーズへ回帰する想定。2030年度に向けては、TAL(#1)・PNZ(#2)とともに各市場におけるリーディングポジションを維持し、市場の成長を享受
- ▶ リタイアメント事業ではChallenger社への出資⁽¹⁾を通じて、個人年金市場の成長を取り込むとともに、TALの強みを活かし、各スーパーアニュエーションファンド(以下、団体)のニーズに沿った団体年金商品の販売を開始し、収益源の多様化・利益上積みを図る

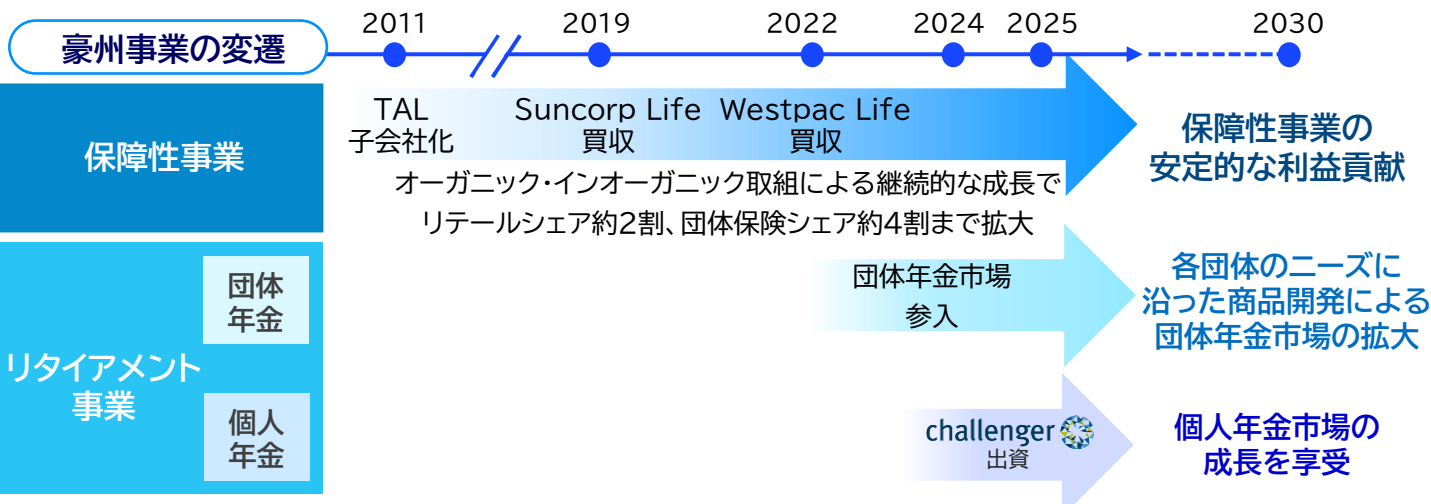
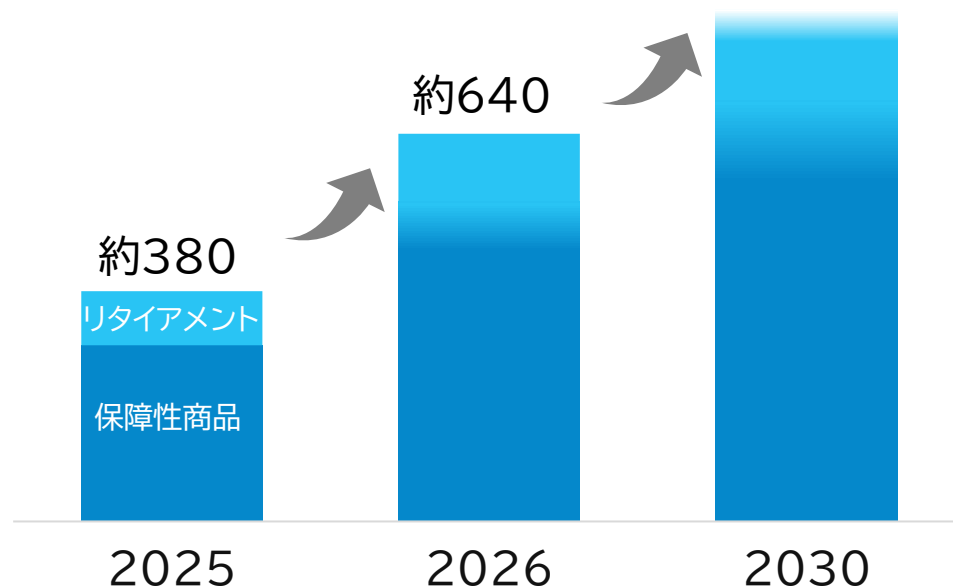
2030年度に向けて

- 安定的な利益創出・リーディングポジションの維持
 - ・ サステナブルな商品提供を通じた安定的な利益創出
- リタイアメント市場⁽²⁾の成長享受
 - ・ 65歳以上人口の増加を受けた豪州の個人年金・団体年金のニーズ拡大機会を捉え、豪州リタイアメント市場の成長を享受

既存事業の成長

修正利益
(億円)

✓ リーディングポジションを維持し、安定成長



- ▶ 昨年度のアジア地域は、DLVNの一時的要因による下押し影響を受けたものの、2030年に向けては利益水準回復
- ▶ その他の重点地域として、インドでは高い市場成長を取り込み事業・利益の拡大を目指すほか、他のメコン地域(カンボジア・ミャンマー)については引き続きシェア拡大を図りながら、2030年度の単年度黒字化を目指す

2030年度に向けて

● 既存事業の着実な成長と早期利益貢献

- ・ 各国での着実なトップライン拡大・シェア向上
- ・ DLVNの契約品質改善に向けた取組、ボトムライン回復
- ・ インド市場の成長を取り込んだSUDの事業拡大
- ・ DLKH／DLMMは‘30年度に黒字化目標



DLVN

マーケットシェア 第2位⁽¹⁾
(外資系生保 第1位)



DLKH

マーケットシェア 第4位⁽²⁾



DLMM

マーケットシェア 第3位⁽³⁾



SUD

マーケットシェア 第11位⁽⁴⁾



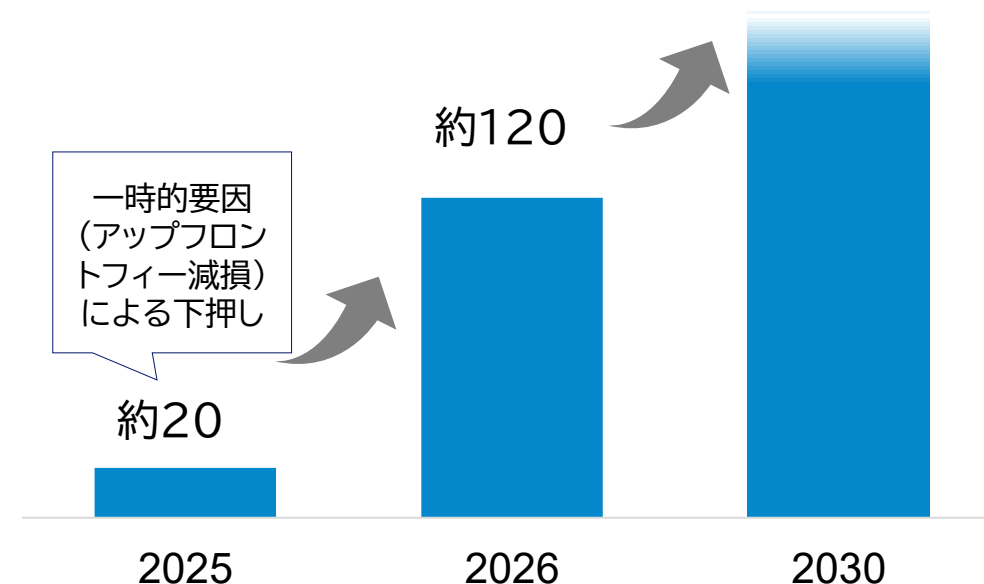
PDL

マーケットシェア 第14位⁽⁵⁾

既存事業の成長 (DLVN)

修正利益
(億円)

✓ トップライン・契約品質
改善で更なる利益成長



(1) 初年度保険料 (2) 新契約年換算保険料 (3) 新契約年換算保険料(国営除く) いずれも2025年12月末数値 (4) 個人保険新契約年換算保険料 2026年3月末数値 (5) 保有年換算保険料 2025年12月末
(6) 1 VND = 0.005945 JPY (2025/12末 TTMLレート)

インオーガニック成長へ向けた取組方針

- ▶ 2030年度の目指す姿の実現に向け、次期中計での成長加速に向けた戦略投資をグループ全体で推進する方針
- ▶ 海外事業においても、財務規律を維持しながら戦略的投資を積極的に実行し、目指す姿に向けた成長を着実に実現していく

(参考)当社の成長加速に向けた戦略投資方針

2026-2030年度 戦略投資イメージ

2030年度グループ修正利益7,000億円目標に向けて成長戦略を加速

1.5兆円程度
(外部調達活用も含む)

即時利益貢献

先進国市場

(保険・アセットマネジメント)

将来成長

新興(アジア)市場

・ 新規事業

会社名略称

PLC	プロテクティブ	[米国] Protective Life Corporation
TAL	TAL	[豪州] TAL Daiichi Life Australia Pty Ltd
PNZ	パートナーズ・ライフ	[ニュージーランド] Partners Group Holdings
DLVN	第一ライフ・ベトナム	[ベトナム] Dai-ichi Life Insurance Company of Vietnam, Limited
DLKH	第一ライフ・カンボジア	[カンボジア] Daiichi Life Insurance (Cambodia) PLC.
DLMM	第一ライフ・ミャンマー	[ミャンマー] Daiichi Life Insurance Myanmar Ltd.
SUD	スター・ユニオン・第一ライフ	[インド] Star Union Dai-ichi Life Insurance Company Limited
PDL	パニン・第一ライフ	[インドネシア] PT Panin Dai-ichi Life

本資料の問い合わせ先

株式会社第一ライフグループ

経営企画ユニット IRグループ

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、株式会社第一ライフグループ(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としています。その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。